



東高だより

2016 No.38

〒984-0832

仙台市若林区下飯田字高野東70番地

Tel 022-289-4140 Fax 022-289-4383

<http://higasi-h.myswan.ne.jp/>

「絆」プロジェクト



宮城県高野連が掲げる「絆」プロジェクトの一環として、3月4日（土）に本校硬式野球部で地域清掃を行いました。「絆」プロジェクトとは、大震災から丸6年を迎えるにあたり、3月上旬に県下の高校球児全員がその感謝の気持ちを確認し、災害が無く思いっきり野球ができる喜びを身をもって実感するため、各校テーマを掲げて活動する。といったものです。

今回は、普段お世話になっている地域の方々への恩返しの意味も込め、六郷地区、井土浜街道沿いを重点的に清掃しました。これからも、地域の方々を始め、応援して下さる皆様への感謝の気持ちを忘れずに活動していきたいと思えます。

みやぎ鎮魂の日

下記は、3月7日（火）に行われたみやぎ鎮魂の日の集会での、校長先生の講話の内容です。

東日本大震災の発生から11日で6年が経過します。日にちにすると2193日です。2千日以上経過しても、あの日のことを忘れた人は誰もいないと思えます。私たちは、あの日恐怖と悲しみに打ちひしがれたと同時に「当たり前が日常がいかに尊いものであるか」「当たり前がやってこないことがいかに恐ろしいことであるか」を思い知らされました。そして、「相手を思いやることの大切さ」「人と人の結びつきのありがたさ」を強く感じさせられました。

あの震災を経験した私たちが考えるべきことは、主に3点であると思えます。

まず、第一に「防災・減災意識を高く保ち、最優先で自らの身の安全を確保する」ということです。本校の東側数百メートルまで、津波が押し寄せたという事実を踏まえ、避難訓練には危機感を持って、真剣に参加し、常に安全安心な行動を心がけるということです。

第二に、「震災の記憶を風化させない」ということです。これは記憶や記録を単に後世につなげていくということだけでなく、震災の経験を教訓として、「多くの人と知恵を出し合い、地域社会の防災・減災行動に繋げていく」ということです。また、被害が甚大であった仙台市東部沿岸地域では、震災の記憶と経験を多くの方々と共に共有し、未来へとつなげる取組が行われています。

第三に、「皆さん自身が復興支援の出来る人材に成長すること」です。本校で充実した学校生活を送り、人としての確かな力を身につけることです。これが復興支援のための大切な行動だと思えます。

福島県では本年度をもって5校の県立高校が休校となります。その中のある高校で3月1日に卒業式が行われました。卒業生代表が答辞の中で「私たちにはバトンを渡す相手がない」と語ったということです。それだけ、福島では震災復興の道は険しく、厳しいのが現状です。また、様々な心ない風評被害も発生しています。

震災の記憶の確かさは被害の大きさや復興の進捗状況によって、違いがあると思えますが、私たちが考えるべきは、未だ深い悲しみや苦しみを抱えている方々の気持ちに寄り添いながら、これから生きていく上で震災を教訓とする意識を更に高めていくことだと思えます。共に頑張っていきましょう。